

B-53 色物の洗汰くに於ける蛍光増白剤の影響(才1報)

ライオン家研 ○若直子 宮本静枝 田中良平 鈴木益太郎 近藤邦成

目的 衣類用洗剤に配合された蛍光増白剤は、淡い色調の色物に鮮やかさ等の影響を与え、布の変退色の原因になることが一般に知られているが、あまり系統だつた研究が行なわれていない現状である。従つて、演者らは先ず、その試験方法の探索を試み、官能検査に於いて、天候、時間等に左右されない標準光源の作成を、自然光を対照に種々検討を行つた。

方法 Mikethren 染料 (Yellow, Red, Blue, Green,) で染色した未蛍光ブロード布を2条件で洗淨処理を行つた。蛍光強度の異なる布を試料とし、これらの布を下記5条件の光源の下でJIS標準色票と色合わせを行ない、色度図にプロットし、処理布の原布からの色ずれの大きさ、方向、同一光源での判定のバラツキの大きさなどを条件間で比較した。使用した光源は、人工光源(①ネオラインテラックス40W8本-色温度5000K, ②ネオラインテラックス40W8本+ブラックライト20Wの色強度, ③ネオラインテラックス40W8本+ブラックライト20W/本)、自然光(④北窓光, ⑤色温度5000K前後の天空光)

結果 ①の判定結果は非常にばらつきが大きい。④⑤の色度点上の判定位置は、人工光源の②③と似ているので、ブラックライトを組みこんだ場合には、充分自然光との近似性があり、又、再現性の良い点などから、色物の洗汰くに於ける蛍光剤の影響を検討する場合、天候、時間等に左右されないこの人工光源が最も適当と判断される。